

調査報告書

- 1 とき：2011年5月23日～5月24日
- 2 行先：陸前高田市・名古屋市支援本部宿舎訪問。仙台視察調査。
- 3 参加者：わしの恵子、山口清明、岡田幸子議員、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容

6月23日

① 陸前高田市共同支援センター訪問(佐々木住田町会議員、藤倉陸前高田市会議員)、市仮庁舎にて中里前市長・戸羽市長と会談。被害状況、要望、支援のあり方の調査。

- ・「陸前高田は戦前に堤防が出来た。「コンクリート神話」で低い土地に市役所をつくり、市役所ができると皆が土地に安心してしまい、周りに人が住み始めバイパスができ、公共施設とショッピングモールが集合した非常に便利な街ができた。
- ・今回の津波で避難所だった公共施設全てが全滅し甚大な被害になってしまった。復興は安全を考えた街づくりを、あせらず時間をかけ考えたい。
- ・ボランティアは復興の大事な役割だ。しかし復興作業で雇用を考えていたが、ボランティアが入り雇用ができなくなったので、なかなか難しいとおもった。
- ・名古屋からきてくれるのはいいが宿舎の手配など大変でもある。短期ではなく長期のボランティアが望ましい。復興は上からの押しつけでなく現地の声で行ってほしい。
- ・名古屋市職の人は、本当にかんばってくれ感謝している。」と藤倉議員。

② 陸前高田市内被害状況視察

- ・車で走っていると突然ガレキの荒野が現れる。少し高台になるとほとんど被害を受けてないように見え、ほんの少しの高低差で壊滅状態になってしまっていた。
- ・海岸は「ガレキで堤防ができる」と聞いていたが、本当に大量のガレキが広範囲に高く積まれ、このガレキ処理も問題だと痛感した。
- ・被害の甚大さに衝撃を受けた。

プレハブの仮陸前高田市役所前で
戸羽市長が恒例の記者会見





- ③ 名古屋市被災支援本部訪問、活動について柄澤主幹より報告を受けた。
- ・現場は長期派遣を希望しているが、市からの派遣は最高でも三カ月。かみ合わないが何とか解決して行きたい。
 - ・市職員へのケア…土日は必ず休み、毎日の勤務時間を守り、1ヶ月に1度3連休を取り名古屋へ帰宅できるようにする。
 - ・宿舎の食事はとても美味しく栄養面も配慮されている。

6月24日

① 仙台市役所訪問

- ・仙台市役所のロビー(被災者の思いの詰まった手紙や支援の展示物)
- ・花木市議員より仙台市の被害状況の説明



② 仙台市内被害地域 調査・視察

- ・折立団地調査(高台にあるが、盛り土と切り土の堺のため土地が大きくずれ、全壊多数の被害となった地域)
- ・道路は深い穴があいていたり、盛り上がってしまったっていたりしていた。一見さほどの被害に見えない建物もあるが、土台が150cmずれてしまっているため町全てが全壊状態。開発地の危険性を実感した。



折立団地の建物
土地が150cm動き崩

③ 海岸部津波被害地域

- ・海岸と並行して走っている高速道路が津波を止めた。
- ・高速道路をくぐると景色が一転してしまう。
- ・町は見渡す限りガレキの山。



・このガレキの処分も問題で、現在は海岸端に積み上げられている。

- ・地震後、津波が来るまで約 40 分。港周辺の道路は大渋滞し、車を捨てて走って高台へ逃げた人だけ助かった。
- ・「防災訓練で津波の訓練はしていなかった」と高見のり子市議員。

港近くの小学校

④ 岩手県庁にて港湾局よりレクチャー (資料別添)

⑤ 仙台港現地調査

- ・国が耐震工事を済ませた堤防が壊れてしまった。
- ・津波警報で早急に沖へ避難したフェリーは無事だったが、逃げ遅れた韓国の貨物船は陸に乗り上げてしまった。

駄目に
い。



貨物船は陸に乗り上げてしまった。

- ・ガントリークレーンは全機電装系が
なり使
えな



逃げ遅れ陸に乗り上げた貨物船

無事だったフェリー「きたかみ」